

レジ袋の有料化に向けて連絡会加盟団体を対象に 2020年6月にアンケートを実施しました。

(アンケートの内容)

- 全団体対象：有料化に向けて実施している取り組み
- 流通事業者対象：有料化によるお客様（消費者）の反応
- 行政対象：新型コロナウイルスの影響で増えている使い捨てプラスチック容器について実施している取り組み
- 全団体対象：容器包装の簡素化活動

(市民団体)

札幌第三友の会

●有料化に向けて実施している取り組み

- ・レジ袋有料化へ向けてのアクションは特になし。
- ・札幌第三友の会では昨年一年かけて脱プラについて取り組んできたが、引き続き行う。また、プラスチックに限らず、不必要なエネルギー削減にも目を向けていきたい。

(具体的には)

- ・毎年秋に行う講習会（開催できれば）でゴミ減量について取り組み・呼びかけ
- ・友の会の会員向けの会報や集まりを通して情報交換・呼びかけ

●容器包装の簡素化活動

・買いものへ行く時にエコバックを持っていくことは「当たり前」になっているので、レジ袋有料化となっても負担感がない人（主婦）が多い。ただ、今まで無料だったコンビニや衣料品店なども有料になるので、コンビニ用（ミニサイズ）や、食品以外に使う大きなサイズのエコバックを自分用や家族用と用意した人がいた。

・レジ袋の有料化は消費者の意識転換のチャンス。環境問題を改めて考えるきっかけになってほしい。ゴミの処理には税金も使われていることだし、レジ袋は必要な人が買う（もらう）もので良いと思う。

(中井さんの講演会でお話されていた京都大学のコンビニの話が良い例)

・レジ袋が家庭に入ってくる入口のことならば、家庭から出ていく出口のゴミの行方についても同時に考え、取り組んでいきたい。今は会員が集まるのが難しいので、情報交換しながら活動している。

・3月の講演会は残念ながら中止になってしまったが、エフピコさんや札幌市のお話は聞きたいので、開催できるようになったら是非再企画してほしい。

北海道消費者協会

●有料化に向けて実施している取り組み

・「北の暮らし」No.498号（6月号）において、7月からのレジ袋有料化の記事を掲載し、ノーレジ袋でエコ生活を呼びかけました。

・北海道消費者協会が指定管理者として運営する北海道立消費生活センターの広報誌「きらめっく」No.122号（7月号）においても「レジ袋が有料になりました!」と題し、種類豊富なエコバッグを紹介しています。

●容器包装の簡素化活動

・北海道消費者協会が指定管理者として運営する北海道立消費生活センターでは、毎年「暮らしのセミナー」を実施しています。その2回目の7月実施分で北海道博物館より講師を招聘し「海外漂着物からプラごみを考える～プラスチックスマート」講座を実施します。

リサイクルプラザ宮の沢

●有料化に向けて実施している取り組み

・6/24～6/28 リサイクルプラザ宮の沢館内で、レジ袋の有料化について簡単にまとめた内容をパネルにして展示した。



●容器包装の簡素化活動

・年内に簡素化連絡会の風呂敷活用展示などをリサイクルプラザ宮の沢館内で展示して、風呂敷やマイバッグの活用を推奨する。

コロナ感染拡大防止のため、展示物は手を触れないように工夫する。

札幌市ごみ減量実践活動ネットワーク（さっぽろスリムネット）

● 容器包装の簡素化活動

・「街から海へ流れるプラスチック」をテーマにパネルを作成し、マイバッグやマイボトル携帯について、啓発しています。

<http://www.city.sapporo.jp/seiso/slimnet/index2.html#kaiyoupuramondai>

・札幌中央図書館で展示

令和2年7月1日から、スーパーやコンビニでのレジ袋の有料化が始まりました。この機会に、海洋プラスチックごみ問題を考えてみませんか？

中央図書館では、1階図書室の入口付近で令和2年9月8日までの約2か月間、さっぽろスリムネット（ごみ減量実践活動ネットワーク）の協力を得て海洋プラスチックごみに関する展示を行います。

解説パネルや実際に海辺に流れ着いたごみの見本と一緒に、ごみ問題に関する本や環境問題に関する本を展示しますので、ぜひご覧ください。

■ 中央図書館の展示紹介ページ

http://www.city.sapporo.jp/toshokan/gyoji/chuo/chuo_tenji_20200709-2.html

日程：令和2年(2020年)7月9日（木曜日）～9月8日（火曜日）

場所：中央図書館1階図書室内（特別展示5）



エコロジア北海道 21 推進協議会

● 有料化に向けて実施している取り組み

・関係団体や行政からの情報を会員企業に周知することを予定

(流通事業者)

株式会社ラルズ

●有料化に向けて実施している取り組み

- ・6/11より有料化開始。

●有料化によるお客様（消費者）の反応

- ・「なぜ紙袋も有料なのか。サービスが悪い」という苦情が来た
- ・弁当などの袋が有料になり、数名のお客様に怒鳴られた
- ・お弁当1個・飲み物1個等2点程しか買ってない時はせめて袋に入れてくれても良いのではないかと、サービスが悪いと言われた
- ・特にお叱り等は無いが、「有料」と伝えると「じゃあ良いです」と言われることは多い
- ・「有料ならいらない」という声が多い。

イオン北海道株式会社

●有料化に向けて実施している取り組み

(2008年より食品レジ袋については有料化済み。また、その有料レジ袋は2013年からバイオマス原料配合レジ袋に切替済み。)

2020/4/1より、道内の「イオン」「マックスバリュ」「まいばすけっと」等、全163店舗にて、衣料品や暮らしの品を含む直営売場で、レジ袋の無料配布を中止しました。

また、現在すでにバイオマス原料配合の食品レジ袋以外の衣料品・暮らしの品レジ袋についても、順次バイオマス配合やFSC認証紙袋など環境配慮素材に切り替えてまいります。

【有料化の事前告知】

開始約1か月前の2/28にリリース発表するとともに、店頭にてポスターやPOP掲出、チラシへの掲載、従業員によるお声掛け、館内アナウンス等を行いました。

●有料化によるお客様（消費者）の反応

※2019年度食品レジ袋辞退率は旧イオン北海道とマックスバリュ北海道を合わせて約85%程。

まいばすけっと・イオンバイクは、当時まだレジ袋は完全無料配布。

- ・2008年食品レジ袋有料化初年度実績から、非食品レジ袋や紙袋有料化も勘案し、当初レジ袋辞退率65%を目標として準備を進めていましたが、今回有料化スタートの4月はまいばすけっとも含む全社計で83.6%、5月84.1%と高い辞退率を維持。お客さまの環境に対する意識が2008年当時に比べ高くなっていることがこの数値から伺えます。
- ・お客さまから「なぜ有料化するのか」などのお申し出はほとんどありませんでした。運用について、一部お申し出やお問い合わせがありましたが、都度検討しながら対応をしている状況で、従業員にも店舗にもあまり大きな混乱はありません。
- ・コンビニと形態が近いミニスーパーの「まいばすけっと」については、特にお客さまのご理解や浸透の面で心配していたものの、結果初月度4月度のレジ袋辞退率は71.7%と高い結果に。現場からは、「お客さまから逆に『イオンの食品なのに、まいばすけっとはこれまで無料だったんだね』との声も複数あった」と聞いており、以前からの有料化取り組みにより「イオン＝レジ袋有料」との理解・認識をしてくださっているということにも気づくことができました。

●容器包装の簡素化活動

- ・レジ袋を有料で販売することにより、プラスチックの使用抑制を図るとともに、資源を無駄にしないライフスタイルの定着を推進
 - ・エコバッグの品揃えを強化し、販売を拡大
 - ・ギフトのエコ包装の推奨
 - ・野菜等のバラ販売
- など

2020年2月28日
イオン北海道株式会社
マックスバリュ北海道株式会社

資源の持続可能な調達および利用の推進のため
道内の「イオン」「マックスバリュ」等の全ての店舗にて
4/1（水）直営売場でレジ袋の無料配布を終了します
順次、プラスチック製・紙製すべて環境配慮素材へ切り替え

北海道のイオングループ（イオン北海道㈱・マックスバリュ北海道㈱）は、2020年4月1日（水）より、資源を無駄にしないライフスタイルの定着に向け、道内の「イオン」「マックスバリュ」等、全163店舗にて、衣料品や暮らしの品を含む直営売場で、レジ袋の無料配布を終了します。また、資源の持続可能な調達および利用の考えのもと、プラスチック製・紙製限らず、すべてのレジ袋を有料で販売します。

さらに、エコ包装を推奨するなど過剰包装の削減に取り組むとともに、2013年より食品売場で有料販売しているバイオマス原料配合※1のレジ袋に加え、衣料品や暮らしの品のレジ袋においても、順次、バイオマス配合やFSC認証※2紙袋の環境配慮素材に切り替えます。

北海道のイオングループでは、2008年6月よりお客さまのご理解、ご協力のもと、レジ袋の原料である石油資源の節約やレジ袋製造時のCO2排出量を削減するために食品レジ袋の無料配布を中止しました。多くのお客さまのご理解とご協力の結果、レジ袋辞退率は2018年度で82%以上と高まっています。

なお、有料レジ袋の収益金は、地域の環境保全活動にお役立ていただくため、自治体や団体などを通じて、緑化や植栽帯の管理・清掃など、地域の環境保全の取り組みにお役立ていただいております。2009年からの北海道のイオングループの累計収益金額は約7,000万円となりました。

北海道のイオングループは、今後も環境に配慮した商品の拡充や資源の持続可能な調達への取り組みなどを通じて、お客さまとともに環境保全や社会貢献活動を続けてまいります。

※1：国際的な認証機関「SGS SA」と「UL Inc.」よりバイオマス認証を取得し、バイオマス原料を約30～50%含有しています。

※2：FSC認証とは、適切に管理された持続可能な森から生産された木であることへの認証です。

【実施概要について】

1. 開始日：2020年4月1日（水）
2. 対象店舗：北海道内の「イオン」「イオンスーパーセンター」「マックスバリュ」「ザ・ビッグ」「フードセンター」「いちまる」「まいばすけっと」「イオンバイク」
全163店舗（2020年2月28日時点）

**レジ袋無料配布
終了のお知らせ**

イオングループでは、環境保全推進のため7月のレジ袋有料化法律施行に先行して直営売場すべてにおいて、
2020年4月1日(水)より実施いたします。
We will charge for plastic shopping bags from April 1, 2020

衣料・雑貨袋 紙袋
衛生用品袋 花袋 酒袋 弁当袋 など

エコバッグのご持参にご協力お願いいたします。

3. 価格/種類

<プラスチック製レジ袋（一例）>

主な使用売場：食品・暮らしの品

種類：M、L、LL、サニタリーM・L等
※業態によって、サイズ展開が異なります。
※まいばすけっとのLはLLサイズに該当します。
※現状はL、LLのみバイオマス原料配合のレジ袋です。今後順次、全種類のレジ袋をバイオマス原料配合に切り替え予定です。

価格：(M) 2円
(L) (サニタリーM) 3円
(LL) (サニタリーL) 5円
※記載は一例です。レジ袋の種類によって価格が異なります。

主な使用売場：衣料品

種類：S、M、L
※今後順次、バイオマス原料配合に切り替え予定です。

価格：(S) (M) 3円
(L) 5円
※レジ袋の種類によって価格が異なります。

<紙製（一例）>

主な使用売場：衣料品・ギフト

種類：小、中、大
※記載は一例です。
※今後順次、FSC認証紙手提袋に切り替え予定です。

価格：一律10円



食品・暮らしの品
新しいバイオマス原料配合レジ袋のイメージ



今後、順次導入予定のFSC認証紙手提袋イメージ

◇SDGsの取り組み

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能な世界を実現するために国連サミットで採択された、2030年までの国際目標です。

この取り組みはSDGsの目標12、13、14、17の達成に貢献します。イオン北海道は今後もSDGsの取り組みを推進してまいります。



【本件に関するお問い合わせ先】

イオン北海道株式会社 総務部広報・IR 金田・山崎

電話：011-865-9111

北海道百貨店協会

●有料化に向けて実施している取り組み

- ・特にアクションを起こすという情報はありません。
- ・POPの掲出
- ・店内放送の実施

●有料化によるお客様（消費者）の反応

- ・容器リサイクル法省令改正の主旨を鑑み、食品のレジ袋に限らず「プラスチック製の袋」全般にわたって有料あるいは廃止の方向も検討されており、この対応は各社によって異なっている。
- ・すでに6月より一部有料化をスタートしている会員店では、ネガティブなご意見も頂戴しているとのことである。

●容器包装の簡素化活動

- ・「スマートラッピング（お客さまのご用途に合わせて包装）」の推進。
- ・「中元・歳暮」の簡易包装のお願いORお勧め。（接客時にお勧めしている）
- ・「マイバック運動」の推進。店内放送にて、定期的にアナウンスを実施。
日本百貨店協会オリジナル以外にも、各会員店オリジナルも販売。

（行政）

札幌市 環境局環境事業部循環型社会推進課

●新型コロナウイルスの影響で増えている使い捨て

プラスチック容器について実施している取り組み

- ・特に減量について取り組みはありません。なお、容器包装プラスチックの3～5月の排出量は、昨年と比べて1割程度増えており、選別センターの運転時間延長により対応しています。現在は、感染疑いのある方がいる家庭には、容器包装プラスチックを燃やせるごみの日に排出するよう周知するなど、感染対策を優先しています。

●容器包装の簡素化活動

【札幌市】

- ・「レジ袋削減に向けた取組みに関する協定」（事業者・市民団体・札幌市）の取組みの成果について、札幌市ホームページで公開しています。

<http://www.city.sapporo.jp/seiso/topics/reji/kyotei.html>

- ・市内コンビニエンスストアでのレジ袋削減を進めるため、レジ袋削減の啓発ポップを作成し、2019年10月から各店舗のレジに設置していただいています。（POPの画像は上記ページ内にあります）

北海道 環境生活部環境局循環型社会推進課

●有料化に向けて実施している取り組み

- ・道庁内の取組として買い物の際のマイバッグの持ち歩きなどを道職員が率先して実行することについて、庁内に文書で再周知するとともに、7月以降、庁内アナウンスを行うことを検討。
また、ポスターによる周知を実施（別添）

◆◆ みんなで減らそうレジ袋チャレンジ ◆◆

お買い物の際には、マイバッグの持参を！！ プラスチックごみによる海洋汚染が国際的にも喫緊の課題となっています。

7月1日からレジ袋の有料化も始まりました。

店頭でレジ袋を1週間1枚ももらわなかった人の割合は、今年3月時点で3割でした。

環境省では、これを今年12月までに6割にすることを目標に、日々マイバッグを持参して、「レジ袋は結構です」と辞退することが当たり前になるライフスタイルの変革を目指し、以下のキャンペーンを実施中です。

【レジ袋チャレンジャー】

「1週間買い物の際にはレジ袋を使わない」などのチャレンジに挑戦し、達成した方には、表彰状がもらえるもの

【レジ袋チャレンジ・サポーター】

環境省では、消費者にレジ袋チャレンジを呼びかけて頂ける事業者、団体を募集しており、登録した場合は、店頭等でPRするための動画や店内放送などの資材を提供するもの

詳しくは、環境省のウェブページ

<http://plastics-smart.env.go.jp/rejibukuro-challenge/>

をご覧ください。

●新型コロナウイルスの影響で増えている使い捨て

プラスチック容器について実施している取り組み

- ・現在のところ、市町村等からプラスチックごみの増加により処理に支障が生じている等の相談は寄せられていないが、引き続きマイバッグの持参などの啓発を行い、プラスチックごみの削減に努める。

●容器包装の簡素化活動

- ・昨年10月に、プラスチックとの賢い付き合い方に関する知事メッセージを発信し、マイバッグを持参してレジ袋を辞退するなど使いきりのプラスチック製品をできるだけ使わないようにすることや、お買い物の際には、再生プラスチックや紙、バイオプラスチック等の地球にやさしい製品を選ぶことなどについて、道民のご協力をお願いしたところ。

職員の皆様へ

マイバッグ
持ちましたか？



そのレジ袋、
必要ですか？



レジ袋削減にご協力ください

レジ袋有料化 2020年7月1日スタート

前倒しでレジ袋有料化を実施することを推奨いたします

消費者
向け

レジ袋有料化お問合せ窓口
☎0570-080180

事業者
向け

レジ袋有料化お問合せ窓口
☎0570-000930

経済産業省
レジ袋有料化
に関するHP



https://www.met.go.jp/policy/energy_environment/20200601/20200601.html

財務省



農林水産省
MAFF



環境省
Ministry of the Environment

【環境生活部環境局気候変動対策課】

北海道農政事務所

●有料化に向けて実施している取り組み

・当事務所庁舎内に設置されている「消費者の部屋」で、6月展示として「レジ袋有料化」のポスターを展示。

【消費者の部屋 URL】

<http://www.maff.go.jp/hokkaido/anzen/seikatsu/shouhisyacorner/shouhisyacorner.html>

